

文教経済常任委員会行政視察報告書

1 視察日程

令和元年 10 月 8 日（火）～9 日（水）

2 視察市及び項目

(1) 奈良県奈良市

小中一貫教育について

(2) 京都府京都市

京エコロジーセンターについて

3 人 員

委員長 立 川 清 英

副委員長 小 澤 宏 司

委 員 伊 東 幹 雄

伊 原 忠

大 澤 一 治

菅 野 文 男

成 田 忠 志

書 記 石 川 誠

小中一貫教育について
(奈良県奈良市)

日 時：令和元年 10 月 8 日（火） 午後 1 時 30 分から

説明者：奈良市教育委員会事務局 教育部学校教育課

◇視察目的

八千代市においては、議会答弁を含め、阿蘇・米本地域において施設一体型の小中一貫校（義務教育学校）の設立を目指し、小中一貫教育を実施するとの方針であったが、平成 31 年 1 月に急遽方針を変更し、施設分離型の小中一貫校（同じ施設にはないが、小学校と中学校、小学校同士が連携を取りながら学習する形態）を設立するとの方針に変更した。

よって、当委員会は、施設一体型及び施設分離型の小中一貫教育について調査するため、先進的な取組を行っている奈良市を調査することとした。

◇視察概要

奈良市は、平成 16 年 3 月に内閣府から小中一貫教育特区として認定を受け、平成 17 年度から市の東部地域にある小学校 2 校と中学校 1 校を統合し、「施設一体型」（小学生と中学生が同じ施設の中で学習する）の田原小中学校として小中一貫教育の取組を始めた。平成 20 年度から、7 中学校区を「連携型」（同じ施設ではないが小学校と中学校が連携して学習を進める）の奈良市小中一貫教育パイロット校に指定し、研究を進めてきた。

そして、平成 27 年度からは、それまでの研究成果を基に市内全中学校区で小中一貫教育をスタートし、現在では、市内 21 中学校区のうち 3 中学校区で施設一体型、18 中学校区で連携型を実施している。

奈良市における小中一貫教育は、「9 年間の連続した学びの中で“確かな学力”と“豊かな人間性”の育成を図る」ことを目標としている。

◇小中一貫教育の 4 つの柱

(1) 地域との連携…「中学校区の子どもは中学校区全体で育てる」との考え

方から、各中学校区に地域教育協議会を設置し、小中一貫教育と連携しながら、地域に根差した学校園づくりを推進する。

(2) 小中学校の教職員の協働…中学校区ごとに「中学校区教育ビジョン」を作成し、教育ビジョンに基づいて取組を行う。

(3) 奈良らしい特色ある教育

○総合「なら」…9年間を見通した共通のカリキュラムで、世界遺産学習や地域学習を通して、奈良で学んだことを誇らしげに語れる子を育成する。

○外国語科…小学校1年生からの外国語教育で、英語をコミュニケーションツールとして自分の考えを伝えることができる力を身に付け、グローバルに活躍できる子どもを育成する。

○ICTを活用した情報活用能力の育成…ICT機器の操作スキルや情報モラルを身に付け、その時代に必要とされる新しい情報活用能力を持つ子どもを育成する。

(4) キャリア教育…「夢と誇りをもち、社会をたくましく生き抜く力の育成」を目指し、教育9年間で子どもたちに付ける力を中学校区で明確にし、成長に合わせた系統的・継続的な取組を推進する。

◇質疑応答

問 保護者や地域住民の小中一貫教育への反応は。

答 導入当初は、全国的にも小中一貫教育が珍しい状況もあり、保護者や地域住民からの不安の声も多かったが、反対はほとんどなかった。現在では、おおむね肯定的に受け止められている。



問 これまでの成果から、一体型と連携型のどちらがいいのか。

答 それぞれにメリット・デメリットがあり、どちらのほうがいいということはない。形態ではなく、連携がよければうまくいくと考えている。なお、市全体でどちらかの形態に統一するつもりはない。

京エコロジーセンターについて
(京都府京都市)

日 時：令和元年 10 月 9 日（水） 午前 10 時から

説明者：（公財）京都市環境保全活動推進協議会（指定管理者）

◇視察目的

近年、家庭ごみの増加や二酸化炭素削減などが、世界的な課題となっているが、本市環境政策の参考とするため、京都市が市民向けの環境学習施設を設置し、成果を上げているとのことから、京エコロジーセンターを視察した。

◇施設概要

館長：高月 紘（京都大学名誉教授）

規模：鉄筋コンクリート造。地下 1 階地上 3 階建て。延べ 2,700 平米

特長：太陽熱や放射熱を利用した冷暖房システム，地熱利用や太陽光発電などの自然エネルギーの活用など，省エネルギー・省資源型設備の導入により，CO₂排出量の約 30%を削減している。

開館年月日：2002 年 4 月 21 日

総事業費：約 18 億円

年間運営費：約 1 億 5,000 万円

◇開設経緯等

京エコロジーセンター（以下「センター」）は、1997 年に開催された「地球温暖化防止京都会議（COP3）」を記念して、2002 年に開設された環境学習や環境保全活動の輪を広げるための拠点施設である。

企画段階から市民が参画し、市内の環境 NPO、消費者・事業者団体の代表者、学識者などによる研究会、企画委員会等が、基本計画の策定から開設に至るまで主体的な役割を果たし、開設後も、上記に地域団体等を加えて発足した事業運営委員会が、事業の承認や運営方針の決定など、事業運営の基本を担っている。環境ボランティアを養成し、来館者への施設案内やイベン

トの企画・実施，展示の改善など，センター事務局との協働により施設を運営している。

センターでは，市民に温暖化防止やごみ減量などの環境学習の場とプログラムを提供するとともに，環境教育の実践やセミナー等を通して，地域で環境保全活動を行う人材の育成に力を入れている。

2006 年度から指定管理者が運営・管理を行っている。なお，指定管理者である公益財団法人京都市環境保全活動推進協会は，2014 年に設立され，前財団法人京都市環境事業協会（2001 年設立）がセンターの業務を中核にして公益を目的に再編成した協会である。同協会は，センターの活動を通して，「持続可能な地域社会の実現」を目指している。



◇事業概要

センターは，「持続可能な地域社会」の実現に向けて，多くの国内外の子どもや大人，事業者，学生，NPO 等の人々が集い，様々な環境学習プログラムが展開され，環境保全活動を担う人が「育つ場」，その活動を「支援・連携する場」，環境保全活動の成果を「発信する場」となることを目指し，様々な活動をしている。

(1) 環境学習プログラムの開発・実践

京都市内の小学校の環境学習や，展示案内，国内外からの視察の受入れを行っている。また，京都市内の小学 4・5 年生，中学生向けの環境学習ツールとして，環境副読本を作成しているほか，環境学習プログラムの開発を行っている。

(2) 企画展示

社会の時流に沿ったテーマを選び，企画展を開催している。NPO や事業者との共同開催や，関連ワークショップも行っている。

(3) イベント企画・実施

親子向けから大人向けまで，幅広い年齢層の方々を対象とし，楽しみな

がら暮らしの中でできるエコについて学ぶことができるイベントを企画・実施している。

(4) 広報・プロモーション

隔月でイベント案内チラシや季刊誌「えこせん」を発行しているほか、ホームページや SNS 等、様々な媒体を使って情報発信を行っている。

(5) 人づくり・ボランティア育成

環境活動を実践する人を増やすために、環境ボランティアの育成や、インターン、職場体験の受入れ等を行っている。また、「環境教育」や「自然エネルギー」など様々なテーマの講座を開催している。

◇その他

基本的に空調設備を使用しておらず、建物 2 階のひさしが角度を設定し取り付けてあり、太陽熱が建物内に入る具合を調整することで、夏は涼しく、冬は暖かくなるように、施設自体としても環境に配慮して造られている。



市民体験型の学習施設として、年間 9 万人を超える入館者を維持しており、その要因の一つとして、センターが養成している環境ボランティア（現在約 190 名）の存在がある。2014 年には、累計 100 万人を達成している。

館内には、「見て・触れて・感じる」体験型展示がたくさんあり、来館者、特に子どもが、楽しみながら日々の生活における環境問題を考えることができるよう工夫がされている。